



ぬりんちゅ つうしん

塗人通信

☆トータルリフォームがお客様に贈る 新感覚のニュースレター☆

激旨ランチ 食べある日記 うなぎ流木

町田市にある「うなぎ流木」をご紹介します。

こちらの店主は小田原の名店、友栄で修業をしたのだそうで、本当に旨いうなぎを提供されています。

私的には、人生で最も旨いうなぎを食べました。

正直言って高いです。食通の方に言わせると、このお値段でこの品質はむしろ安い、と言われていたのですが、やっぱり高いものは高いです(笑)

私は、接待を受ける形で訪店したので、値段は気にせず美味しく頂きましたが、ちょっとランチにという感じのお店ではありませんね。特別な日の会食にお勧めです。



住所 町田市根岸町
1008-20-1F
ランチ予算
4000円～7000円
おすすめメニュー
うなぎ 肝吸い

古書探究 氷菓 著・米澤 穂信

神山高校に入学した、主人公の「折木奉太郎」は、省エネな生き方が身上の無気力な学生です。

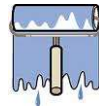
海外を渡り歩く姉からの手紙をきっかけに、廃部寸前に追い込まれた古典部に入部する事を決意します。

入部届を手に部室に向かうと、そこには奉太郎と同じく入部希望の「千反田える」がいて、彼の省エネライフは、いともたやすく砕け散る事になります。

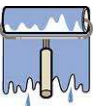
奉太郎はなるべく関わり合いを避けようとはしますが、この時、あることに気が付きます。えるが部屋の中にも関わらず、奉太郎が来た時には鍵が閉まっていたのです。

彼女に鍵を閉めた覚えはなく、誰かに閉じ込められたということになります。

えるは俄然興味を持ち、奉太郎は彼女の強い好奇心に負け、渋々その謎に挑み、見事に解いてみせますが、文芸部を中心に次々と不可解な謎が起るが...さわやかで、少しほろ苦い、青春ミステリー小説の傑作です！



塗装屋社長が雨漏りを考える 塗る事よりも大切な事 No21



今回は、新築時のバルコニー防水の施工についてお伝えします

家を建設する場合には工事を行う順序があります。基礎を打って、上棟をして、配管や配線を回して、屋根や外壁を施工して、内装を仕上げる。

ざっくり言うとこんな感じですが、各部位毎に細かな順序が決められています。

今回注目するのは、バルコニー防水と掃き出し窓サッシの取り付ける順番です。

まず、結論からお伝えしますと、バルコニー防水を施工してから、窓サッシを取り付けるのが正しい順序です。

右の写真は、窓サッシが取り付けられる前の防水施工の様子です。矢印の部分まで防水が施工されていますので、防水膜の上にかぶせるようにサッシが取り付けられることになります。



ご自身の家が正しい施工なのかを見極めようと思った場合は、掃き出し窓の下側をの確認すれば判断できます。

右写真のように窓サッシの下に、フィンと呼ばれるサッシの出っ張りが確認できれば、正しい順序で施工が行われていると考えてられます。



正しい順序で施工が行われていない場合は、右下写真のように、サッシの下側に防水膜がかぶさるようになっています。間違った順序での施工であっても、必ず雨漏りするとは言いきれませんが、雨漏りのリスクが高いことは間違いありません。



正しい順序で施工をする事はとても重要ですが、現場作業においては当たり前の事ではありません。

残念なことに、多くの家が間違った順序で工事をされています。それは、バルコニー防水に限ったことではなく、あらゆる箇所で行われている可能性があります。

それらを、正しく判断し、より良い形に近づけるのが我々のような住宅リフォーム業者の使命だと考えています。



～意外と知らないハンコの話～

捺印や押印って、一般的に使う言葉ですが、その区別は意外と正しく知らないものかもしれません。

捺印とは、署名捺印(しよめいなづいん)を省略した言葉で、自筆による署名に印鑑を押す行為のことを指します。

押印は、記名押印(きめいおういん)を省略した言葉で、自筆以外の方法であらかじめ名前が記されている書面に印鑑を押す行為を指します。

因みに、印章とは物としてのハンコそのものの事を指し、印鑑とは所有者が登録されている印章の事を指します。

正確には実印や銀行印以外は印鑑ではないのですが、一般的には認印も印鑑と認識されていますね。



現場の本音をぶっちゃけます！

～現役職人営業マン

田中彪の奔走日記～ 第12回



こんにちは！梅雨も本番、開ければ猛暑が来る時期になって参りました。

今回は若き職長のお話をさせていただければと思います！

弊社の圧倒的な強みは、職人の技能が多彩な所です。具体的に申しますと、一般住宅の外装工事に関しては、弊社のスタッフで概ね施工が出来ます！

屋根工事、塗装工事、大工工事、雨漏り工事、防水工事など、1人1人が得意なスキルを持ち合わせている為、その現場の作業に合わせて、職人の年齢は関係無く、技術のある職人が、職長に立って工事していきます。

実際に20代前半のスタッフが、屋根工事の職長と言ケースなども御座います。そういった場合は、社長や先輩の職人が裏方に付いて、しっかりサポートしながら作業を進めていきますのでご安心下さい。

ベテラン職人から若き世代へと、技術や経験が、どんどん受け継がれる様な会社に行きたいと思えます。

トーションリフォームは現在スタッフ募集中です！一緒に働きたいという方が居ましたらご連絡下さい！

最新の工事写真を更新しているホームページが大好評です。
過去の施工例も満載！
毎日たくさんのアクセスをいただいております！
是非ご覧ください

～塗人-てっちゃんこと社長の田中です



マイブームは「あらあけいいち」

塗人コラム ☆ペンキ屋社長のお仕事日記☆

№56 「倒産しない為に実践すべきこと」

会社を経営していくにあたり、大切な要素と考えていることは「倒産しないこと」です。

当たり前の様ですが、これが意外と簡単な事ではありません。ここ数年で、10億近い売り上げのある友人の会社が倒産しましたし、従業員50人以上という弊社の取引先も倒産しました。小規模な会社に至っては数えられないほど倒産をしています。

とあるバラエティー番組で、起業した会社が10年以内に倒産する確率は90%と紹介されていました。



詳しく調べてみると、日経ビジネスWEBに、起業した企業の生存率が記載されていました。

創業から5年後は15%、10年後は6.3%、20年後は0.3%という衝撃的な数字でした。

弊社は創業から、23年が経過していますが、1000社のうちの3社しか生き残れない競争を勝ち抜いてきた事になります。実感はありませんが、少し誇らしい気持ちです。

会社が倒産すると、当然の事ながら従業員も困りますが、お客様にも大きなご迷惑が掛かってしまいます。

例えば、10年保証の工事があったとして、何らかの不具合が発生し、保証対応で直してもらおうと考えて、施工業者に連絡をしたら廃業してしまっていた・・・。

これではお客様は泣き寝入りすることになってしまいますから、会社というものは、継続的に経営を続けることが大切だと考えています。

長く続ける秘訣は、目先の欲にとらわれず、良い仕事を続けていく事が、一番の秘訣だと考えています。

弊社は塗装工事から10～15年後に2度目の塗装工事をご依頼いただく事が沢山あります。

良い仕事をしていれば、お客様が戻ってきて下さるという事を実感する事が出来て、本当に嬉しく思っております。

これからも、トーションらしく、変わらぬスタイルで、会社を営んでいきたいと思えます！今後ともご支援の程、よろしくお願いいたします！



神奈川県知事許可(般-30)第79168号

(株)トーションリフォーム

相模原市南区下溝1750-3

TEL 0120-775-388

お見積り無料！お気軽にお問い合わせください！